

## 「先生はもう移民政策反対を諦めてしまったのですか？」

平成 28 年 4 月 12 日

### ●だいもんさんからの質問

欧州の初期の移民制度以上に過激な実質的な移民制度が具体的に動き出しています。欧米では移民制度の失敗が明らかになっています。既に見直しへ向かっています。選挙中かなりの議員さんが明確に移民的な制度全般に反対していました。しかし、今は反対の声は全く聞こえてきません。なぜ先生方は従来の主張通り反対しないのでしょうか？今の財界の利益さえ望めれば（つまり財界の支持さえ得られれば）、子供や孫の世代の犠牲は構わないという事でしょうか？なお人で不足は理由になりません。そもそも国家の根幹や文化を考えた時に一時的な利益の為にそれを犠牲にしてもいいという発想自体が狂ってます。さらに既に IT やロボットなどの発展により 10 年～20 年後に仕事不足が深刻になるという予測が国際的に問題視されている状態です。本当に取り返しのつかない事だけはしないで頂きたいのです。先生方はもう諦めてしまったのでしょうか？参院選の投票行動に大きく関わるので何らかの形で党内の状況を教えて欲しいです。これ以上国を壊すのは止めてください。まだ何もしない方がマシです。

### ●西田昌司の答え

日本には技能実習制度という制度があり、発展途上国の外国人を受け入れて期間限定で日本で技術を習得させて、母国に帰国後は習得した技術を生かして母国の発展に貢献していただくことを目的としています。この受け入れ枠を拡大する動きは確かにあります（従来は最長 3 年であったが、平成 27 年 3 月 6 日の閣議決定により 5 年に延長）。しかし、移民を受け入れて労働力を確保しようといった議論は自民党内において全くされていませんし、私は移民については絶対に反対です。

寿命の延びとともに働ける年齢も高くなってはいますがそれ以上に少子化が進んでおり、将来の労働力不足が非常に心配されていますし、今すぐに少子化が解消されたとしてもこれから生まれる子供が働き手になるには時間がかかります。自民党内では現在、外国人労働者を期間限定でいかに管理するかという議論がされています。

だもんさんがおっしゃるように、近い将来、IT化によって人手不足が解消される可能性は十分にありますが、タクシーやバスの運転手が要らなくなるような時代もそう遠くはないのかもしれませんが、その前に過渡的に人手が不足する時代が確実にやってきますし、その間をどうやって乗り切るかについては外国人労働者の活用を含めた様々な工夫が必要と思います。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>